



先進地紹介

中心市街地活性化とまちづくり

～福島県三春町～

常総市都市建設部都市計画課 主事 平井 恵理

はじめに

平成29年8月29日～30日の2日間、茨城県都市計画協会が主催する先進地視察に参加しました。ここでは、第12回まち交大賞まちづくり達成大賞を受賞した福島県三春町をご紹介します。

三春町の概要

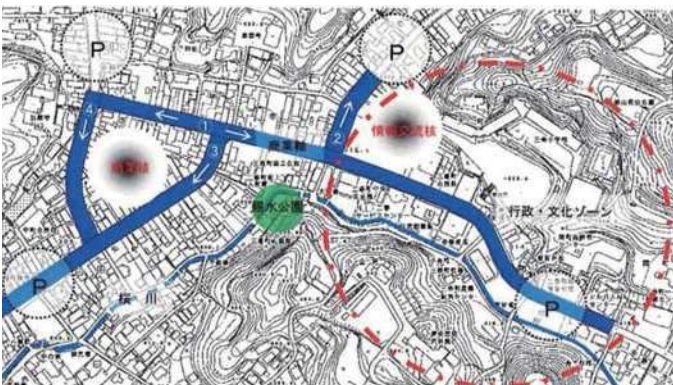
三春町は、福島県のほぼ中央部に位置し、面積72.76km²、人口約1万7千人の都市です。古くからの城下町で、江戸時代には交通産業の要所として栄え、現在も土蔵といった歴史的建造物が多く残っています。日本三大桜である「三春滝桜」でも知られています。

市街地整備基本計画

<2核1軸構想（情報交流核・商業核・商業軸）>

三春町における中心市街地の整備は、平成元年策定の「三春町市街地整備基本計画」に基づき進められてきました。整備方針のうち、「ひと・もの・情報の集まる核・情報発信拠点づくり」と「魅力ある商業空間（商業軸）づくりとその演出」は、「2核1軸構想」と呼ばれ、平成11年策定の「三春町中心市街地活性化基本計画」においても、重要な基本方針として位置づけられました。

この構想を基に、公共公益施設の集積や交通ネットワークの整備が進められました。



官民学の連携

三春町のまちづくりの特徴は、「官民学の連携」です。
・「民」まちづくり協会（住民参加）、三春町商工会、三春町住宅研究会、(株)三春町まちづくり公社 など

・「学」大高正人氏（三春町出身の建築家）が参画

「民」と「学」が近い距離で連携することで、地域の想いと専門的知識が融合し、官民学が共通認識のもと連携したことが、市街地整備基本計画の策定から、一貫して継続的かつ計画的にまちづくりが進められた大きな要因であったとの説明がありました。

情報交流核の整備

三春交流館「まほら」（ホール、学習室等）の建設にあたっては、官民学が十分な議論（施設規模や機能など）を行ったうえで、施設設計をしてい



ました。一流の音楽家を呼べる音響が素晴らしいホールやガラス張りの角部屋が特徴的でした。

商業軸の整備（おまつり道路）

<2つの核（情報交流核と商業核）を結ぶ主要幹線の整備>
テーマ：歴史と現代的なイメージの調和（住民の生活と城下町としての歴史に配慮した街路）



歩車道の段差が無い

電線類の地中化、三春駒をイメージした街路灯の設置、祭りやイベント等に柔軟に対応可能な道路空間構造（可動式ポラード、歩車道の段差が少ない 等）による整備、沿道においては、景観に配慮した街並みづくりが、官民一体で進められていました。

商業核の整備

既存の商業施設が、町外へ移転する危機がありましたが、なんとか慰留し、町内の別な場所への移転で収まっ



たのご説明がありました。

移転にあたっては、歩道側の建物の側面に木製の掲示板を設置（商工会などで管理・運営）し、街並みの連続性を創り、表通りの景観形成に努めていました。

■裏道整備（街並み環境整備事業）

歴史と伝統を活かし、寺社・蔵をとりこみ、いにしへの情緒をしみじみと感じたり、楽しく歩ける街並みの創出を目指し、裏道・路地などの修景整備を行っていました。

この整備により、「歩行者空間ネットワークの形成」や「表通りとの連続性・回遊性の確保」がなされ、併せて、整備前は、住宅の敷地奥に位置し、通りから見えなかった蔵や歴史的建造物（修景も実施）が通りに面するようになり、観光資源に生まれ変わったとのことでした。

※蔵が町の重要な観光資源と認識し、蔵が通りに面するような周遊ルートをつくったとのこと



また、裏道は景観に配慮した石張り舗装となっていました。さらに、この石張り舗装には、2色の石が利用されており、道路中央付近は淡色の石、両サイドは濃色の石になっていました。これは、道路幅員が狭いように視覚的に認識させ、自動車の運転手が速度を出しづらくする仕掛けとのことでした。

■百杯宴広場・桜川プロムナード整備

河川改修事業での残地の利用、並びに「百杯宴の碑」を活かした親水広場の整備が行われていました。

河川管理用通路も景観に配慮した転落防止策を設置（河川占用）することで、散策路として活用でき、回遊性を高めていました。

また、石張り舗装による道路整備を行うことで、良好な景観形成を図ったほか、河川沿いの散策者のために、公衆トイレ、観光案内板も設置していました。



広場の植栽管理は、官民協働とのお話もありました。

■景観条例

中心市街地の景観形成は、平成2年に制定された「美

しいまちをつくる三春町景観条例」（福島県内で初の制定）に基づき進められていました。

この景観条例は、基調とするイメージカラーは設定されていますが、全般的に緩い制約の条例となっています。これは、施主や設計者、町、景観専門委員会（専門家）が話し合いのもと、皆でより良い景観形成及びまちづくりを進めようとするもので、その結果、個性と統一性の調和のとれた、表情豊かな街並みの形成につながっていました。



■その他

◆なかもち蔵の修景（観光交流センター事業）

まちなか観光を推進するため、蔵を修景し、観光案内所やカフェ等として、活用していました。運営は、（株）三春町まちづくり公社。



カフェ



観光案内所

◆城山公園の整備

公園内の通路整備や間伐、各地区まちづくり協会などとの官民協働による植栽を進めていました。草刈りなどの維持管理も官民協働とのことでした。

■おわりに

今回の三春町の視察では、住民や観光客などの様々な人々が中心市街地を歩いている光景が印象的でした。これは表通りと裏通りの両方で見られ、「2核1軸構想」をはじめとする各種整備の効果を実感することができました。

また、三春町の職員の方が、取り組みの説明をしていた中で、「まちづくりに終わりはない」とのお話をされていたことがとても印象に残りました。

更に、町が保有している資産を有効に活用しながら、社会情勢にあわせた新たな整備を緻密に融合させている点は、当市においても大いに学ぶところがあると思われました。

まちづくりの施策の検討においては、民間や学界との積極的な連携により、行政だけの目線ではない、多角的かつ各自治体の特色を活かした独自性の高い計画を見出す契機になると思いました。